

令和 8 年度 美鈴が丘エルモ 事業計画書

1 今年度の目標

・ ホールの愛称の募集や無料貸出を行い、活動拠点の利用の定着を図る。
・ トイレの改修（バリアフリー化）を行い、避難場所として整備する。

2 ひろしま LMO 運営助成金を活用する事業

1 事業名	美鈴が丘「ふれ愛ネット」整備事業	(3) 事業中(1) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和 8 年 4 月 1 日 ～ 令和 9 年 3 月 3 1 日	
(2) 実施場所	美鈴が丘エルモ事務所内（仮称）みんなの広場	
(3) 参加者数	美鈴が丘町内会 17 人（見込み）	
(4) 主催団体	美鈴が丘町内会連絡会、美鈴が丘地区社会福祉協議会、美鈴が丘地区民生委員児童委員協議会	
4 取組内容	地域内の町内会組織を、組・班などを編成の中心とするのではなく、日常的に挨拶・会話を交わせる 10 世帯程度を単位とする組織（仮称・ふれ愛ネット）を編成して、高齢者の見守り、防災、防犯に実効的な体制を整備する。本年度は、美鈴が丘 17 町内会で構成する町内会連絡会を中心に、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会が協力（検討委員会の立上げ）し、各町内会における編成上の課題を整理して、体制整備に向けた調整・促進を図る。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 美鈴が丘も団地開基以降半世紀を経過し、前期高齢者が 4 割強（後期高齢者が 25% 超）の高齢団地となり、高齢者特有の疾患で日常生活維持困難者の増加に加え、地理的環境もあって通院・買物難民のまちとなっている。「いつまでも住み慣れたこのまちで暮らしたい」との願いをかなえるために「向こう三軒両隣」の関係を深めていく必要がある。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 日常の交流を深めることにより、「プライバシーの壁」を乗り越えて「負担感のない相互扶助関係」を構築することができると考えている。このことは「近隣の安否確認」「防災における早期避難」「詐欺や不審者への対応などの防犯」につながるものである。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	美鈴が丘子育て支援・居場所づくり事業	(3) 事業中(2) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	美鈴が丘エルモ事務所内（仮称）みんなの広場	
(3) 参加者数	30人（見込み）	
(4) 主催団体	美鈴が丘地区社会福祉協議会、美鈴が丘地区民生委員児童委員協議会、美鈴が丘地区青少年健全育成連絡協議会、シニアクラブ	
4 取組内容	地域の子どもが成長していく過程において、どのように悩み困っているのか、同様に保護者もどのような支援を求めているのか、学校、PTA、既存の支援グループ等との意見交換、調査、アンケートに基づき支援策を取りまとめる。各主催団体の連携・協力の下に、みんなの広場を中心として町内の施設を活用した三世代交流により支え合う「子どもの居場所」を開設し、取りまとめた支援策を実施する。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 団地開基後50年が経過し、少子高齢化が進行する中でも第2世代の回帰や文教環境に優れた地域で子育てがしたいとの転入により子供の数が漸増しつつある。しかしながら、保護者の大半は「共働き」であり、育休などの制度充実があっても子育てにかかる負担は大きなものとなっている。「早朝勤務や残業」などにより保育・就学時間からこぼれる子どもや発達特性などにより学校・地域での居場所が見つけにくい子どもなど、既存の制度では対応・救済されない子ども、そして負荷を感じている保護者が存在している。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 子どもの健全な発達に寄与し、地域が一体的に取り組むことにより保護者の安心感や負担軽減につなげることができ、ノーマライゼーションを地域に根差すことができる。	

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	防災対策の充実(緊急避難場所の整備)	(3) 事業中(3) 事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ~ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	美鈴が丘エルモ事務所内(仮称) みんなの広場	
(3) 参加者数	30人(見込み)	
(4) 主催団体	美鈴が丘地区社会福祉協議会、美鈴が丘地区民生委員児童委員協議会、美鈴が丘学区自主防災会連合会	
4 取組内容		
災害発生(避難勧告)時における町民の自主避難場所として、美鈴が丘エルモ事務所のトイレを高齢者・障がい者も安心して使えるようバリアフリー化するとともに、避難訓練及び救急救命訓練を実施する。		
5 目的・効果		
(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 美鈴が丘は平成3年の19号台風や平成30年の鈴が峰崩落などの災害に遭遇しながら、早期避難行動をとらない現況がある。要因としては「正常性バイアス」にもあるが、風水害における指定避難場所が美鈴が丘高校講堂と地域のはずれにあり、構造的に一時的であっても生活保障機能に課題があることが要因の一つである。美鈴が丘の中心にあり建物構造的にも町民が安心して避難できる環境を整備の上、各訓練を実施する。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 高齢者や障がい者の使用に困難のあるトイレをバリアフリー化することにより、安心して早期避難できる環境が整備でき、地域の福祉環境基準の向上、ノーマライゼーションの意識の定着に結びつくものである。また、各訓練を実施することにより町民の防災意識の向上及び相互扶助体制の充実につながる。		

3 自主財源で実施する事業

年月日	事業名	特定地域共同活動の分類	取組内容
	なし		